

発行日 平成 26 年 04 月 10 日

春の訪れとボランティア活動

全国長南の皆様今日は、京都の長南喜善です

ご無沙汰を致しておりますがお変わり御座いませんか・・・

今年の冬は関東地方も降雪の回数が例年よりも多かったようですが特に東北地方は年々降雪量が多くなっている様な気が致しております。

私の父の故郷山形県大蔵村は豪雪地帯として全国的にも名が知られているようで雪の季節には度々ニュースで見られますが大蔵村の長南会の皆様も元気にお過ごしのことと存じますがお変わりございませんか。

例年の事とは云え、豪雪の中での生活は大変なご苦労の多い事と思います。昭和32年まで私も最上町の親倉見で生まれ生活をして来ましたので屋根の雪下ろしや軒下の雪かき等の用事はとても嫌で雪のない地方で生活したいなあ・・・なんて子供心にも考えていました。

京都に来てから54年にもなりますが山形から親戚や兄弟が京都に来るとお前んどこは雪がなくてええなあ・・・なんて良く聞く会話でもあります。

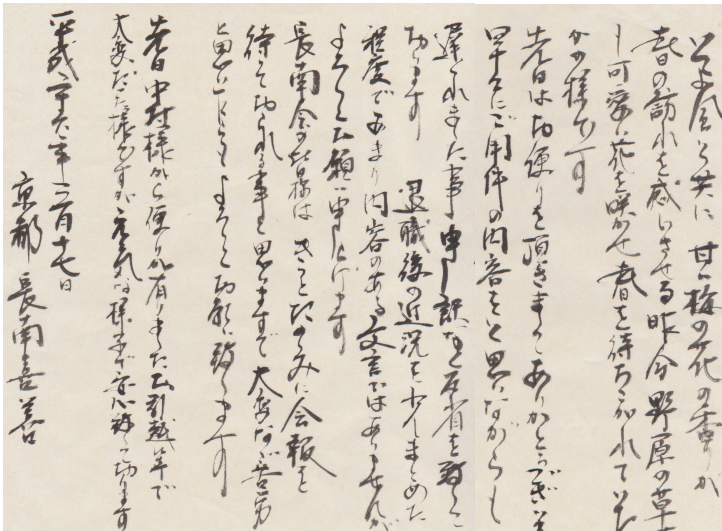
その京都は梅の花も満開になり肌寒さの中にも本格的な春の訪れが間近である事を知らせるかの様に、山形から持って来て植えてあるフキノとうが家庭菜園の畑の隅で可愛顔をのぞかせております。これも子供のころの思い出がぎっしり凝縮されている山菜の一つです。

私事一昨年71歳の誕生日を機に50有余年のサラリーマン生活を卒業したまでは良かったのですが、いざ毎日の仕事に解放

久保川と天王山の森を守る会



されて見ると毎日何をして時間を過したら良いやら・・・自分の新たな生活の目標、時間の有効な使い方過ごし方に落ち着くまで一年程かかりました。今は裏山大山崎天王山の麓で孟宗竹の間伐、竹林ボランティアの仲間と一緒に竹林の整備や間伐を行った場所に、小学生の自然学習でドングリの実を育て植栽し、落葉樹林を育成し、放置竹林で荒らされる山を、自然林に戻し野鳥や昆虫の集まる自然の森山にしようと栗の木や山桜の苗木等も植栽し楽しみながら気の長い取り組みを行っております。今は4月、5月のタケノコの収穫時期に例年イノシシに竹林を荒らされるので今年は何か対策をとイノシシ道に唐辛子を撒いたり、間伐の竹で柵らしき物を作ったり、太陽光電池、充電し暗くなると自然に点灯し明るくなると消える便利な備品を取り付けたり等々、試しておりますが、昨年に比べ結果はどうなのか、気楽な単純な楽しみですよね。



いやいやこれだけではない
んですよ。長年のテーマ、今
年もゴルフのスコア、85を切
る為にはドライバーの飛距
離を伸ばす事、パターの平均
ストローク如何にして少な
くし、目標を達成させるか…
今年もこんなテーマに真面
目に取り組んでいるので居
ります。家内からはいつもア
ホヤナーと笑われています。

←左は長南喜善さんからの手紙

式年遷宮 新宮殿へのお参り

昨年平成13年は伊勢神宮、出雲大社、共に式年遷宮の行われた記念すべき特別な1年だったと思います。10月には遷宮の執り行われた新宮殿の出雲大社にお参りに行ってきました。普段一般の参拝者の入れない新宮殿内で参拝をさせて戴く事が出来て感動と感謝の気持ちで心静かに参拝をさせて戴きました。本殿正面の左側には長南一族の祖先に繋がると伝えられて居りま



あめのほひのみこと
す天穂日尊とその十六世、大相撲の神様として、特に大相撲関係者からは今もご信仰と尊崇のみのすくねを深められている、野見宿禰の社が並んで祀られております。今まで何回となく出雲大社をお参りしておりますが、私は必ずこの天穂日尊と野見宿禰の社をお参りし末裔の一族に繋がる長南喜善がお参りに来た事をお伝えし手を合せております。皆さんも出雲大社をお参りの際には是非訪ねて見て下さい。すぐ近くに素晴らしい近代的な文化資料館もあり、出雲文化の歴史の深さ垣間見る事が出来ます。

私の家から15分程の所に菅原道真公所縁の長岡天満宮があり、今年1月30日には大型観光バス3台に分乗して、長岡天満宮主催の伊勢神宮参拝の行事が（毎年1月実施）執り行われ私は初めて参加をし、こちら昨年10月に遷宮を執り行われたばかりの新宮殿伊勢神宮を参拝してまいりました。お伊勢参りは外宮から参拝するのが順序とか、最初にこちら新宮殿への遷宮。間もない外宮の参拝をすませてから、本宮伊勢神宮を参拝。

外宮では遷宮の執り行われた、旧殿の内部も拝見する事が出来ました。下宮本宮の伊勢神宮の参拝とも一般参拝者の入場出来ないご本殿の前で長岡天満宮の宮司様と一緒に参拝をさせて戴きました。更に初めて伊勢神宮の神楽殿に案内をして戴き参加者全員でお祓いを受ける緊張と感動の一時貴重な体験を得ることが出来ました。

神楽殿では雅楽の奉納も拝見することが出来ました。それぞれ神社の神楽殿は弟の須佐能尊すさのうのみことがお隠れになった母親、伊邪称美尊いざなみのみことに逢いたいと、わがまを云い、乱暴な振舞に心をいためた天照大御神あまてらすおおみかみが天岩窟あめのいわとに身を隠された際に太陽の神を天岩窟から救出しようと他の

神々の知恵で笛や太鼓で賑やかに歌や踊りを行ったその舞台が神楽殿として今に伝えられているんだそうです。古事記のある一説から、芸能達人な神様、天宇受売命あめのうずめのみことは今も芸の神様として多くの芸能人から厚く信奉されている神様でもあります。今回は格別な感謝の気持ち一杯の伊勢神宮参拝の一日でした。

長岡天満宮菅原道真公所縁の天満宮に月参り

毎月25日が長岡天満宮の月参りの日と定められており、今年から正会員に登録して貰い参加をして居ります。付近の奉賛会の方々、地元実力者他大阪の方もお参りに来ておられ中、小路宮司様の祝詞のご指導を戴きながら、明治天皇や菅原道真公の有名な歌も朗読されて、1100年以上も前に活躍された道真公に想いをはせ偲ぶ参拝の日でもあります。道真公の末裔に繋がる全国長南会の一人として、身近にこうした行事が遠永と引き継がれ、平安朝時代の衣装そのままに現在に至っている尊さを肌を感じながら緊張感に包まれた一時でもあり、熱心に信仰心厚く参拝を継続して居られます方々に心から感謝をしながら月参りの行事に参加をさせて戴いております。

2月25日は道真公の命日で6月25日が生誕の日である事から、25日が月参りの日と定められているそうです。大山崎町円明寺に住んでから45年になりますが昨年念願の阪急電車西山天王山駅が昨年12月に完成し4月には名神高速道路天王山インターから、天橋立舞鶴道への高速道も開通し、何れも家から5分程度の場所に完成しましたので電車でも車でも非常に便利な環境になりましたので京都にお越しの際には気軽にお立ち寄り戴きたいと思っております。お待ちしております。

全国長南会の皆様といつの日か又お逢いできます事を楽しみに致しております。

平成26年3月17日 長南喜善

菅公御歌

清 海ならず たたへる水の 底までも
清き心は 月ぞ照らさむ

誠 心だに 誠の道に 叶いなば
祈らずとて 神や守らん

梅 東風吹かば 匂ひおこせよ 梅の花
主なしとて 春を忘るな

桜 桜花ぬし 主を忘れぬ ものならば
吹きこん風に ことづてはせよ

紅葉 この度は 幣もとりあえず 手向山
紅葉の錦 神のまにまに

毎月二五日 午前九時

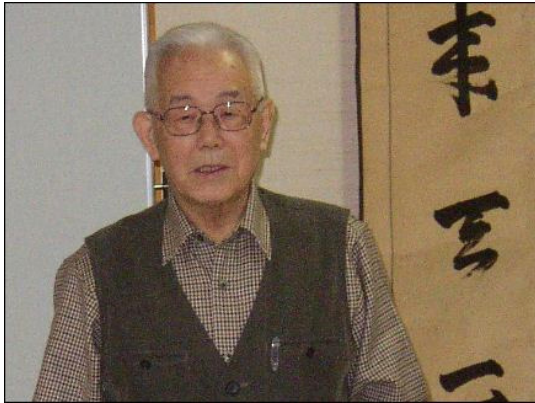
御縁日詣り
長岡天満宮



神社拝詞

掛けまくも畏かしこき、長岡天満宮の大前を拝み奉りて 恐かしこみ恐かしこみも白まおさく大神等の広き厚き御恵みを 忝かたじけなみ奉り高き尊みおしえき神教のまにまに天皇を 仰おほぎ奉り直すき正ましき真心まごころを持ちて誠の道に違たがうことなく負おい持もつ業わざに励むましめ給たまい家門いえかど高く身み健たやかに世のため人のために尽つくさしめ給たまえと 恐かしこみ恐かしこみも白まおす

我が人生を決定したもの (その4) 中村就一



宇都宮中学校（現在の宇都宮高校）は栃木県トップクラスの中学で新学校として有名だったが、私は大学進学などには関心がなく、成績も200名中下部の50名内だったので、就職組に入れられ学校農園の手入れなどが多かった。従って一応東京高等師範学校なども受けたが合格するはずもなかった。それでも劣等感などはなく全く平気でのんびりしていた。父は仕方なく頼みこんで逓信官吏練習所の雇員として採用されたから翌年は入学できた。入学してみると、ごく一部を除いて逓信省役人の子弟であることがわかった。陸軍士官学校と肩を並べる難関校というのは到底信じられなかった。

ある朝風邪気味なので飯田橋の逓信病院に行くとい医師は休学と診断したから実家のある高崎市に戻った。当時父はラバウル野戦郵便局長として南海の果てにいたから弟や妹計5人を抱えた母の苦労は続いた。

逓信病院の医師は「休学して田舎で白いメシを食べてこい」と言ったが、高崎市の医師は「結核ではない」と判断した。もちろん結核ではなかった。承知の上で医師たちは私の人生を守ってくれたのだ。でも戦局は厳しくなる一方で帝国海軍は南海の果てに沈められ、米軍は沖繩に迫ってきた。

私は逓信省の学校だったから通信兵として扱われたがトンツーが出来なかったからそのための教育を4カ月受けた。これ

が終わると仲間は次々と居なくなって、とうとう私を含め数名になった。心細くなって本部へ行って「我々はどうなるのですか？」と聞いた。

「お前ら希望はどこだ？」

「仏印です」

わたしたち3人はフランス語をやったからフランス領インドシナ（今のベトナム）を希望したのだった。

「バカ。今ごろ仏印なんぞダメだ」

「そしたら、どうしたら？」

「どこへでも行け！」

軍隊とは命令さえあれば動くものだと考えていたのでこれには驚いた。

3人は相談した。今ごろ東京へ戻っても、毎日空襲だから、それより空襲のない所がいいとなって浜松へ行った。ところが浜松は沖合に浮かんだ船から米軍が大砲で狙い打ちだ。すぐ東の磐田の連隊に行行って申告した。沖繩へ行く部隊に配属され間もなく出発。ところが京都につくとしばらくここで足止めということになったのでこれ幸いと神社仏閣巡りをした。これはありがたいと飽きることはなく歩き回った。私は見習士官だから外出自由だった。8日ばかり経った頃出発となった。神戸、三宮にかかると列車はノロノロとなり、米軍の爆撃で鉄道が飛び大急ぎで仮設した鉄道だから仕方がない。窓から眺めるとモンペの娘さんが歩いているので手を振ると「兵隊さんがばってー」と言うので「まかせとけー」などと答える有様。

関門トンネルをくぐって九州に渡ったところで命令が入り、沖繩行きは変更。つまり沖繩は占領されたのだった。

命令で下車した所は大宰府だった。夏休みで小学校が空いていたので我が部隊80名ばかりはそこを宿舎とした。部隊長以下の将校は市内のどこかに入ったので、我々見習士官が最高位となった。命令が入らぬので何をしたいかわからず、仕方なく村を貫通する宝満川で水泳大会をやったりした。そうしているうちに命令が来て、

ここに無線通信の基地を作ることになった。村内の田につき出た半島状の丘に横穴を掘り、地中に無線機を隠して丘上にアンテナだけを立てるということで工事を始めた。しかし毎朝学校から整列して現地に向かう時間が惜しいとなり現場近くの民家に分宿することにした。ところが間もなく福岡の司令部から呼び出しがあり、やはり学生あがりの将校から「フンドシひとつで田植えしているので聞くと兵隊だという。せめて階級章くらいつけられないのか」と小言。やむなくフンドシに階級章を取り付けた。往復の時間を節約するため、兵隊を田の近くの家に分宿し、主人が兵役で不在の家では、8時間労働のあと16時間は暇だから兵隊は家事や田植えなどを手伝い大いに感謝されたのだった。

無線通信所建設の現場は地下のトンネル工事だから大勢では働くことができないので、我が部隊にもひと昔前など今回久しぶりで再動員された将校が5名いたが、全くの素人ぶりで何もできないらしく、全て見習士官の小生任せのため、私は全く自由に働いた。

一方現地の人たちは、日本全体は負け続きだが九州だけでも米軍に反撃して戦う気持ちがあり、その日のためにと我々を大切にしてくれた。

終戦となり、私の身分は逓信省の役人だから職務上の戸籍のある蒲田郵便局に戻るべきで翌9月には上京して局の寮に入り毎日蒲田郵便局に出勤した。

蒲田区は米軍の爆撃で丸焼けだったから局自体も焼け残り窓ガラスはなく、焼けトタンを家にくくりつけていたから局内はうすぐらかった。昼飯は各自ハンゴウをを並べて局内で昼食を作るという生活でロクに仕事もできない。局のまわりは焼け野原でお客もめったに来ない。ある時若い娘が二人局に飛び込んできたので驚いて聞くと米軍に追われたと言っていた。

こんな局で働くことになり、わかった

ことは局員が次々と軍隊にとられて手不足になったため地元の中学生などを手伝いに雇ったことである。私が就任のあいさつで局内をまわった時に手伝いに来ていた中学生は聞いたという。それは「ホラ、この人がお前の夫になる」という声である。これが後に妻になった房江である。

房江には姉と妹がいたが、母親は夫が結核で入院していたので生活に困り房江を兄嫁に預けて神戸に移った。私は父の親友が逓信省にいて引っ張ってくれたから2年もしないうちに麻布の本省に移った。その頃は房江と夫婦になると決めていたので18歳になった時に区役所に届けて夫婦になった。そして不思議な縁でいっしょになったからこれを機会にそれぞれの先祖を調べてみることにした。

中村は明治時代になった頃にひとりの男が長州（今の山口県）から来て利根川のほとりの家に泊まり後にその家の主に納まった。私が中村の歴史を調べ始めたが、山口県の朝鮮半島の向かいには中村姓が多らしく、先祖は我が家だという人が幾人もいたので日比谷の逓信省本省にいた私は調べに行くのをおっくうがっているうちに、それではと房江の家系を調べたら長南氏というあきらかな歴史の一族とわかり、中村は放棄して長南氏にのめりこんだ次第である。

話は少し昔に戻る。幕末に西から進軍してくる薩長連合軍を防ぎ幕府を守ろうとした軍勢がいた。主に東北地方出身者で上野寛永寺に集まった。しかし幕府自体抵抗する意思はなかったため、集まったのは個人的な志士で西の軍勢に一蹴されてしまった。刀一本担いで幕府を守らんと上京してきた東北地方の若武者のひとりに長南平七がいた。松島の一隅、寒風沢の出身である。薩長軍に追われて、北へ逃げたが追いつめられて東京湾の片隅の海岸に隠れている。そこに通りかかった一隻の船が平七を見て「こんな所にも官軍にみつかればダメだ」といって船に乗せて去った。

つづく

バンコクでのペットとの暮らし 清藤里枝子 (旧姓 長南)



タイの日本人向けフリーマガジン Arche+ (アーチプラス) 右ページの下が里枝子

パクチャーのおかげで生活にハリが出ました

在タイ2年 パクチャー (ヨツユビハリネズミ) 1才と

ウィークエンドマーケットへ歩いていく距離に住んでいる私。動物が好きでよくペットコーナーに遊びに行っていたんです。そしたらある日、ハリネズミを発見。すぐには購入せず、3ヶ月くらい悩んだ末にお迎えしました。ハリネズミの習性や飼い方、診てもらえる病院はあるのか、日本へ連れて帰れるのかなどいろいろ調べた上で、飼えそうだったからです。

ヨツユビハリネズミはペットとして親しまれている種類で、ネズミという名前になっていますが実はモグラなんです。夜行性なので日中は寝ていることが多く、夜になると元気になります。暗いところが好きですね。うちに来た時はすごく小さかった

んですが、今では10cmにまで成長。最終的には15cmくらいまで大きくなるそうです。

基本的に人にはハリを立てないので、手で持つこともできます。パクチャーは怒っている時の顔がおもしろいですね。また、固いものを食べている時には邪悪な表情に(笑)。眺めているととても表情が豊かで見ている飽きません。

私は日本人が多く住んでいるスクンビットから離れた場所に住んでいるのでとてもさみしい毎日だったんですが、パクチャーと暮らすようになってから生活が楽しくなりました。パクチャーとの生活を大切にしていきたいです。(青宿出身)

前ページは私の次女の
の記事で、結婚後、夫
の仕事の関係でバンコ
クに住んでおり、フリ
ーマガジンの取材を受
けて紹介されたもの。
私も昨年と一昨年の年
末年始に2回ほど訪問
し、ビーチや寺院、遺
跡の観光、ショッピング
などを楽しんだ。



三島由紀夫「暁の寺」ワットアルンにて
秀則 光子 里枝子

タイの首都、バンコクの人口は800万人
と云われるので東京と同じような大都会
だ。最近日本のマスコミで、デモの様子
が報道されているが、一部の地域では過
激なことがあるかもしれないが、全体的
には静かだ。大通りの露店などにはデモ
グッズなどが売られていて、お祭りのな
な雰囲気もある。確かに大都会で、新し
いデパートやBTS (Bangkok Mass Transit
System) という高架を走る電車などは東
京と遜色ない。それにタイの国際空港は
、多分成田空港よりも規模が大きく、設
備も数段上だろうと感じられる。ただ、
大通りの歩道には所狭しに露店や屋台が
並んでおり、雑然とした感じで、全体
的に、ひと昔前の日本の都会という表
現が当たっていると思う。

タイには日本の天皇と同じように、国
王が人民の尊敬の対象であり、今回の訪
問時、王様が静養している別荘の前を車
で通過する機会があったが、警官とみ
られる制服の人たちが100人くらい整
列していた。また、海からは軍艦が5隻
くらい浮かんでにらみをきかせており、
日本より物々しい雰囲気である。

バンコク市内にルンピニー公園という、
都会的で、水と緑が美しい大きな公園
がある。朝夕、散歩やジョギングする人
たちで賑わう憩いの場所だ。日本の公園
と違うものは、池には大きなナマズが
泳いでおり、水辺には、なんと2メー
トルほどのトカゲが何匹も歩いている。
また、池の中を泳いでいるトカゲもい
る。水オオトカゲという種類で、公園
内に100匹くらい生息しているそうだ。
池のナマズや公園のハトなどを捕食し
ているのだろうか。聞くとところによ
ると数が増えないように、職員が卵を
駆除して食べているらしい。初めて行
った人は驚くかもしれないが、私は予
め聞いていたので、感動して見るこ
とができた。

タイには日本企業が数多く進出して
おり、今後も加速するであろう。日本
車が多数市内を走っているが、タイ仕
様のスピードメーターは200kmまで
である。コンビニも日本企業と同じ
ものがあり、治安もよく、何よりも、
微笑みの国と云われるように、人々
が非常に親しみ深い国だ。

日本の冬に当たるこの時期は、タイ
では乾期で朝晩は涼しく過ごしやす
い。それから、タイ料理の唐辛子に
は気をつけて！！辛くて汗が噴き出
ますよー。

(青宿 秀則)



ルンピニー公園の大トカゲ

青宿のお庚申さま

今でも青宿では、お庚申さまの集まりがそれぞれのグループで行われているがその由来や意味は良く理解されていない。

正式には庚申の日、夜明かしをして飲み食いをして厄落しをする集まりで、その根源は中国の道教の思想にあるとされ、わが国には平安時代に伝わり、最初は宮廷の公卿たちの間で行なわれていたが、そのうち武家社会に伝わり、常民の間に普及したのは江戸時代になってからと云われている。

神道では日本神話の猿田彦の神を御本尊としていて、仏教では青面金剛を御本尊としている。青宿で行われている庚申さまの掛軸には青面金剛が鬼を踏みつけてその周りに三猿(見ざる、聞かざる、言わざる)がいる。仏教が広まってから常民に普及したので一般的にはこの掛軸が多いと思われる。

信仰の概要は、十干十二支の庚申の夜、(60日に1回庚と申はめぐり合う)に人間が眠ると、その体内にいる三尸という虫が体内から抜けだし、天帝のもとに行ってその人の悪行を報告する。それを聞いた天帝はその罰としてその人を早死させるというである。

そのため庚申の夜は飲食して談らんし、夜明けまで眠らずに身を慎むという信仰だ。庚申の日には守らねばならないことが多く、まず

※同衾を忌むこと、もしこの夜に子供ができると盗人や不具になるといわれる。夜業や結髪なども禁忌とされ、食べ物も肉類やニラ、ネギ等も避けねばならない。

身を謹むことから始まったが、徐々に米や野菜、お金を持ち寄り、皆で飲食・歓談して過ごす楽しい集まりになっていった。また、さまざまな情報を交換し、農作業の知識や技術を研究す

青面金剛図の掛け軸



る場でもあったようだ。この集会を3年18回続けた記念に建立したのが庚申塔だ。長寿や健康のみならず、家内安全や五穀豊穡、現世や来世の事などを祈り、それを碑面に刻んだ。

青宿鹿島神社の入り口の右側にこの塔がある。青面金剛と三猿が彫られており、造立の年月日も見える。(元文5庚申...と読めるので1740年?)江戸時代後半のものだと思われる。

いずれにしても、平安時代からの風習が形を変えながらだが現在も続いているというのはおもしろいことだ。二十七夜講、天神講、犬供養など古くから今も続いているものの、その由来や意味を調べるとロマンを感じられる。

※同衾: 一つの寝具の中に一緒に寝ること。特に、男女が特別な関係を持つこと。ともね。

茨城県阿見町青宿

年会費納入のお願い

振替用紙を同封しますので、年会費1口2,000円をお振り込みください。

郵便局のキャッシュカードをお持ちの方は、振替用紙を使用しないでATMから次の口座にお振り込みください。

全国長南会 記号 10650 番号 13085711

ATMからだど、手数料(会負担)が無料になります。

全国長南会の運営のため、ご協力お願いします。